

東日本大震災追悼・復興レセプション
(伊藤哲雄駐ハンガリー日本大使挨拶)

2012年3月14日

本日は、ご多忙の中、「東日本大震災追悼・復興レセプション」にご出席いただき、有り難うございます。昨年3月11日に東日本大震災が発生してから、ちょうど1年が経ちました。この大震災では、地震と津波による直接の被害が甚大であったことに加え、深刻な原子力発電所の事故が重なったため、その影響が広く全国に及び、我が国にとって正に未曾有の国難となりました。地震と津波による死者・行方不明者は2万人近くに及んでいます。本日のレセプションでは、まず最初に、亡くなられた方々のご冥福をお祈りして、御出席いただきました皆様方とともに1分間の黙祷を捧げたいと思います。ご協力くださいますようお願いいたします。

(黙祷)

この戦後最大の国難に際しては、さまざまな形で世界各地から日本に対する連帯が示されました。ハンガリーにおいても皆様をはじめ沢山の方々から大変心温まるお見舞いやご支援を頂きました。ハンガリー政府からは、地震直後にEUを通じて緊急食料援助を頂きました。その援助物資には、ハンガリーのお菓子やケチケメートで日系企業が生産しているカップ麺も含まれており、宮城県の被災者の方々に大変喜ばれました。民間団体から被災地に緊急援助チームが派遣されました。また、当館で把握しているだけでも、ハンガリー各地で50件以上の募金活動やチャリティー・コンサートが開催されました。特に、ハンガリー・日本友好協会のメンバーの方々には大変お世話になりました。さらに、8月には、ホードメズーバーシャーヘイ市の招待により、岩手県と福島県の被災地の生徒17名がハンガリーを訪問し、シュミット大統領とオルバーン首相からも暖かく迎えて頂きました。そして、生徒たちを招いて日本大使公邸で行われた歓迎行事のために、ハンガリー日本商工会からご支援をいただきました。

皆様方からこのような暖かいご支援を頂いたことは、被災地の人々のみならず、我々日本国民全体に対する大きな励ましとなり、両国間の絆は一層強いものになりました。様々な形で日本との連帯を示して下さいました皆様方に、日本国民を代表して改めて御礼を申し上げたいと思います。

この1年の間、私たちは官民一丸となって、被災地の復興と避難民の支援、そして原子力発電所における事態の収束のために全力を尽くしてまいりました。その結果、震災から一年たった現在では、被災地での電気や水道のライフライン、運輸・通信インフラはほぼ復旧しています。また、被災民の避難所から仮設住宅・公営住宅への転居も順調に進み、多くの被災者の生活環境は改

善されてきています。しかし、震災前の自宅から離れた場所に居住している被災者は未だ33万人もあり、町の再建と住民の帰還の問題を解決しなければなりません。

また、被災地一帯に広がった災害瓦礫は、例えば、宮城県では例年の一般廃棄物の量の19倍にも達しましたが、こうした大量の瓦礫は、その殆どが現場から撤去され仮置き場に搬入されたものの、リサイクルなどの最終処理は未だ開始されたばかりです。加えて、これからの重要課題は、被災した企業の復旧の加速化、被災地での産業復興と雇用の拡大です。本年2月に発足した復興庁が全体の司令塔となり、関連する地方自治体と連携して、官民一体となってこうした困難な課題に取り組んでまいります。

福島第一原発の事故につきましては、ハンガリーを含む世界中の国々に多大のご心配をおかけしました。この場を借りて改めてお詫びもうしあげます。事故発生以来、まずは何よりも原子炉の状態を安定化させるべく、国の総力を挙げて対応してきました。その結果、原子炉の温度が100℃以下に保たれ、万一のトラブルの際でも、放射線の放出が大幅に抑制されることが技術的に確認されるに至りました。その結果、昨年12月16日、野田佳彦総理は、発電所の事故そのものは収束に至った旨の宣言を行いました。しかし、事故の全体の収束にはまだまだ長い年月がかかります。原発周辺地域での放射線の徹底した除染、住民の健康管理、被災者への損害賠償の処理など解決すべき問題は未だ沢山残っています。そして、原子炉の状態は一応安定していますが、これから3-40年かかるといわれる完全な廃炉に至るまで、決して油断することは出来ません。

日本は、第二次世界大戦の敗戦後の焦土の中から、国民が一体となって努力した結果、立派に国家の再建を果たし、経済的な繁栄を享受するようになりました。今回の大地震の直後には、絶望と困難の中であって、被災地の日本人が、社会の秩序を乱すことなく、お互いに助け合っている姿は、日本民族の美德として、ハンガリーを含む世界各国の方々から賞賛の声を頂きました。我々日本人は、これからも日本人であることに誇りを持って、大震災からの復興と原発事故の完全な収束に向けて、一致団結して全力を尽くしてまいる所存です。そして、被災地を震災前に比べてより良い社会に再建することにより、世界の皆さんから寄せられた心温まる支援に対して応えたいと決意しています。

放射能の影響を心配して、原発事故以来、外国では日本からの食料品の輸入に様々な規制が課され、外国から日本への旅行者も激減しました。放射能の影響については、様々な、根拠のない風評が被害を及ぼしています。しかし、日本において、全国至る所で毎日放射線量の測定が行われ人体への安全性の確認が行われていること、マーケットに出される農産品も厳重な検査・出荷制限が行われていることが外国でも知られるようになり、外国からの旅行者も日本製製品の輸出も、例年並みへもどりつつあります。ハンガリーに関しては特に問題があるとは承知していませんが、在ハンガリー日本国大使館としても、日本国内の状況について、HPなどを通して皆様に対

して積極的に情報提供し、風評被害を払拭するために努力してまいりたいと思います。

本日は、これまでの復興の様子を皆様に知って頂くために、会場に被災地の様々な写真を展示しています。その中には、これまで何度も被災民を見舞われた天皇・皇后両陛下のお写真もございます。日本酒や日本の食材で作った料理も用意しました。そして、お帰りには、被災民への緊急食料援助にハンガリー政府にも使って頂いた、日清食品のケチケメート工場で生産したヌードルをお土産に差し上げたいと準備しています。

最後に、日本国民が、皆様の本当の友情と連帯に感謝していることを改めて申し上げ、引き続き、皆様方のご理解・ご支援をよろしくお願いして私の挨拶といたします。本日は、お越しくださり有り難うございました。

(了)